

WTI 40ドルに戻す

市場、統計実数の改善材料視

ニューヨーク市場の米国産WTI原油（期近・終値）は2日、前日比83¢高の40¢65を付けた。終値としてはマイナス価格をつけた4月20日以降の最高値で、9日ぶりの40

ドル台。世界各国で新型コロナウイルス感染再拡大が懸念されているが、市場は米国内在庫や雇用統計など、実数の改善を材料視した格好だ。

されるWTI、北海ブレント、ドバイのうち、ブレントとドバイは主要産油国の大幅減産と需要持ち直しを受けて40ドル台に値位置を固めている。ただ両油種より2ドルほど下値で

推移しているWTIは6月22、23日に一時的に40ドル台に乗ったが定着はしていない。

原油価格が40ドルを超すと採算が取れるシェール油井が増え、米国の生産量が増加に転じるとされる。OPECプラスの協調減産とともに、5月以降の需給改善をけん引してきた米国の生産減が弱まれば、コロナ第2波とともに原油価格の回復を鈍らせる要因になる。

EIA（米エネルギー情報局）の最新週次統計によると、6月20～26日の米国の週間原油生産量は、前週と同じ1100万バレル。当面の最少だった前々週（1050万バレル）を50万バレル上回っているが、ピークだった3月13日（1310万バレル）比では210万バレル低い。

6月25日に社名を变更后、たばかりのENEOSホールディングスが難局を迎えている。欧州の石油最大手、英蘭ロイヤル・ダッチ・シェルが同30日に発表した巨額減損の要因を探ると、原油価格の下落や実需低迷という業界共通の悩みが鮮明。ENEOSも稼働力の劣化につながり積極還元の方針にも響きかねない。

シェルは2020年4〜6月期に最大220億ドル(約2兆3800億円)の減損計上を発表した。減損は、資産価値を引き下げた分を損失として認識する会計上の処理で、一過性で終わることが多い。問題は、減損が必要と判断した今の経営環境

の悪化。コロナ禍を機に世界の原油需要が本格的に縮小する可能性が出てくる。

今とこの海外メジャ一ほどの大規模な減損リスクは小さそうだ。シェ

ルは20年の原油レートを1ドル60から35ドルに下げたが、ENEOSは20年3月期の半分の30ドルで設計3000億円近くを計上するなど前期に資産価値を下げている。追加損が出にくい面もある。

「積極還元」に影響も

それでも気になるのが販売の減少だ。お金を稼ぐ力を示す営業キャッシュフロー(CF)の悪化につながるからだ。コロナ影響で4〜9月の国内ガソリン需要は2割、ジェット燃料で8割減の見通し。21年3月期の最終損益は減損が無くなり400億円の最終黒字(前期は1879億円の赤字)に改善するが、営業CF(休日影響除く)は4990億円と前期から約1100億円減る。運転資金の増減などを勘案した実質ベースでは3700億円規模と1500億円減る見通しだ。

同社は23年3月期まで3年間で計1兆5000億円の設備投資を計画する。40年に国内ガソリン需要が半減するとみて戦略投資は8300億円と手厚くする。水素や再生エネルギー、電力・ガス小売り拡大、EV(電気自動車)充電やカーシェア拠点向けサービスステーション設置などを予定。3年間で創出する営業CFはすべてこの投資に充てられ、株主還元額は3年で計3000億円程度と前期までの3年間と同水準を計画する。予定する資産売却(1500億円分)で賄いきれないため、有利子負債を積み増す計画が必須。投資面では戦略分野以外での絞り込みが急務だ。(武田健太郎)

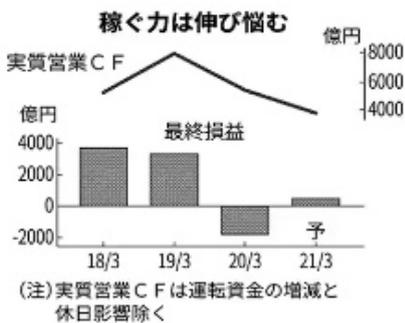
財務の健全性を示す純有利子負債資本倍率(ネットDレシオ)は現在の0.7倍から0.8倍に悪化する。1倍を下回り健全だが、コロナ後は原油の需要や価格へのリスクがある。来期以降は1ドル60ドルと見込んでおり、実需低迷が長引けば想定する営業CFを創出できず、不透明だ。

「戦略投資は絶対に削れない」(杉森務会長)

以上、やれることは効率化と投資選別しかない。

ENEOS難局 シェルに重なる

原油需要減 稼働力が低下



7/4の記事

引用記事

日経新聞

毎日新聞

化学工業日報

燃料油脂新聞



7/4の記事

引用記事

日経新聞

毎日新聞

化学工業日報

燃料油脂新聞